

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大 学 名	千葉大学
整理番号	B01
構 想 名	グローバル千葉大学の新生 －Rising Chiba University－

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

（総括評価） S	優れた取組状況で事業目的が十分に達成され、今後も持続的な発展が確実に期待できる。
（コメント） 事業期間全体において、ガバナンス改革による学長主導による全学共同体制の下、主に「ガバナンス」、「学修制度」、「プログラム」、「グローバルネットワーク」の4つの改革が行われたものとなっている。特筆すべき点として、事業開始早々に国立大学初の「国際教養学部」を新設し、その学部において「全員留学」という高い目標を掲げ、全学の教育改革のパイロット学部として各種プログラム作成・ノウハウを蓄積したことが挙げられる。それに留まらず、国際社会で活躍できる人材養成を更なるものとするため、2020年からは「ENGINEプラン」を開始し、「国際教養学部」に限定していた「全員留学」を全学に展開しており、総合大学では前例のない取組みを進めるものに繋がったことは、評価に値する。その他、「ENGINEプラン」の実施やそれ以前の運用に向けた各部局との意識共有等により、大学全体の学部・大学院教育の改革、さらには国際連携等に繋がったと言える。 上記のような成果は、貴学が事業期間やその先を見据えた戦略に優れていたことが要因として挙げられる。具体的には、先んじて活用していたオンライン型の国際協働学習・留学をコロナ禍中に積極的に取込んだことで影響を最小限に抑えたことや、ステークホルダーへ丁寧な説明の上でのプログラム有償化、授業料値上げといったものである。国立の総合大学において、全学的に国際化の雰囲気構築できたことは大きな成果でモデルとなるべきもののため、更なる高度化を進めながら、他大学へ波及していくことを期待したい。 一方で、貴学のより一層の国際化のためには教職員の高度化や、提供している学習プログラム等において改善すべき点も見受けられる。貴学は外国人職員の少なさが目立つため、今後増加が見込まれる外国人教員や留学生対応のために、職員高度化に向けた研修充実が必要だろう。また、国際協働教育に挙げられるように魅力的なプログラムを各種構築されているが、これらプログラムの履修者・修了者数は少々物足りないと感じるため、理由を分析し、改善に繋げていただきたい。 最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。	